

米国 回復ペースは広がりを伴い一段と加速(10年4月ISM製造業景気指数)

発表日：2010年5月3日(月)

～世界的な製造業部門の回復感の強まり～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数は60.4と市場予想を上回り、04年7月以来の高水準

4月のISM製造業景気指数は、60.4と前月から上昇し市場予想の60.0を上回った。拡大縮小の分岐点である50を9ヵ月連続で上回ったうえ、04年7月以来の高い水準となっており、製造業部門の回復ペースは加速している。在庫(前月比▲1.2%ポイント)、入荷遅延(同▲0.7%ポイント)が押し下げ寄与となった一方で、生産(同+1.2%ポイント)、新規受注(同+0.8%ポイント)、雇用(同+0.7%ポイント)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+0.8%ポイント上昇した。さらに、拡大した業種数は17業種(前月17業種)と、広がりを伴った製造業の回復を示している。

各国の景気刺激策による需要拡大、在庫調整の進展によって、製造業部門の回復傾向は持続している。

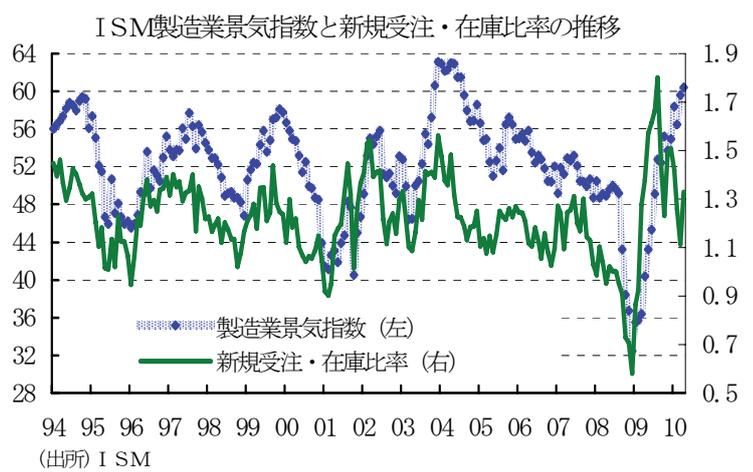
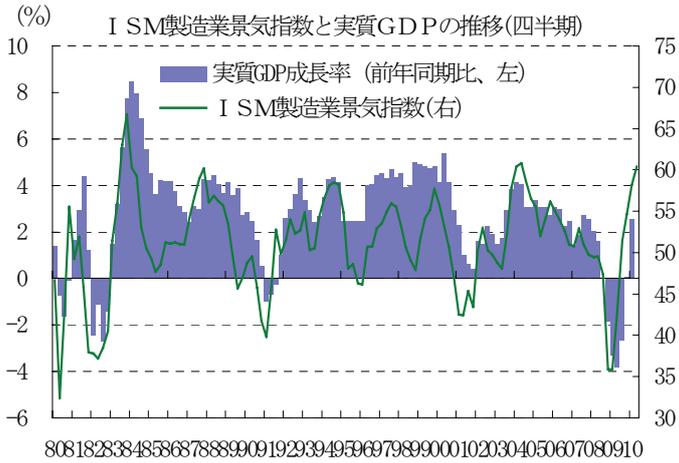
予想を上回った同統計発表直後の市場反応をみると、株価は一旦下落も上昇に転じた。10年債利回りは低下した。為替市場では、ドルは対円で強含んだ一方、対ユーロでの反応は限定的。

ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
09/08	52.8	63.0	62.9	47.0	35.0	56.0	52.5	65.0	55.5	49.5
09/09	52.4	59.9	57.5	46.5	41.2	56.8	53.5	63.5	55.0	52.0
09/10	55.2	58.3	62.2	51.8	47.3	56.3	53.5	65.0	55.5	51.0
09/11	53.7	61.5	60.2	49.6	41.4	55.7	52.0	55.0	56.0	51.5
09/12	54.9	64.8	59.7	50.2	43.0	56.8	50.0	61.5	54.5	55.0
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5
10/02	56.5	59.5	58.4	56.1	47.3	61.1	61.0	67.0	56.5	56.0
10/03	59.6	61.5	61.1	55.1	55.3	64.9	58.0	75.0	61.5	57.0
10/04	60.4	65.7	66.9	58.5	49.4	61.3	57.5	78.0	61.0	58.0

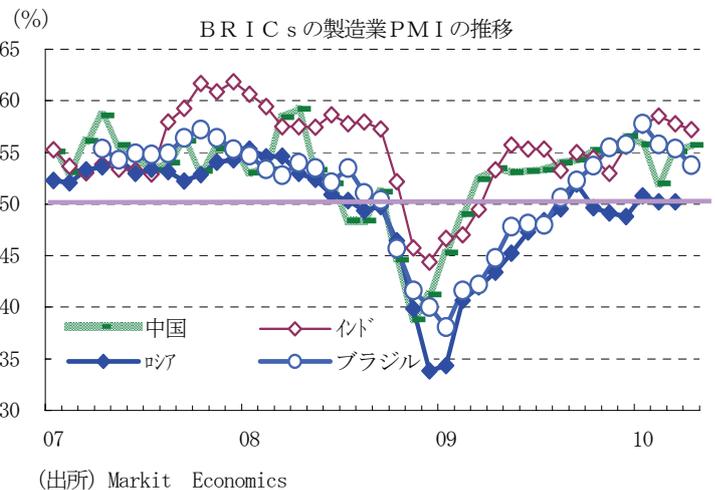
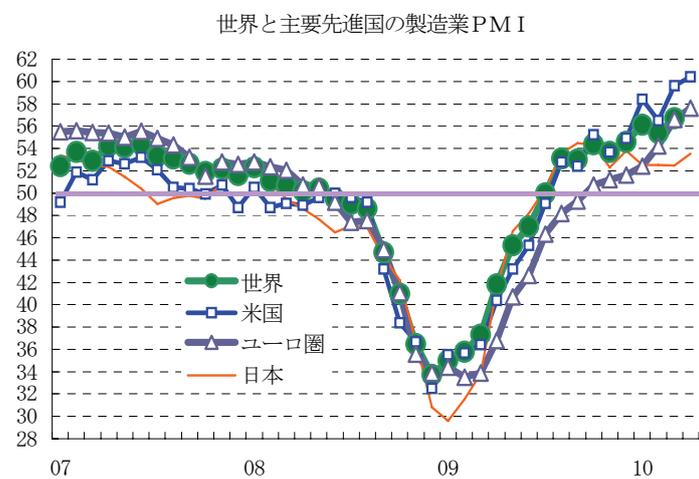
ISM製造業景気指数は間もなくピークアウトする可能性

今後に関しては、景気対策による最終需要の持ち直しや、ハイテク需要の拡大傾向、在庫復元の動き等による生産活動の活発化を背景に、2010年のISM製造業景気指数は高い水準で推移すると見込まれる。ただし、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が09年8月をピークに10年4月にかけて低下していることから、ISM製造業景気指数は間もなくピークアウトすると予想される。



世界製造業景気指数は前月から上昇し高水準を維持すると予想され世界的に製造業部門が景気回復を牽引

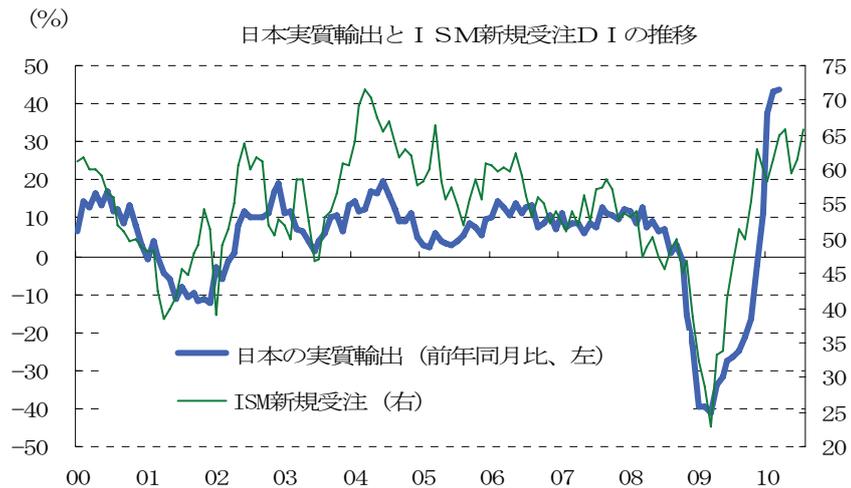
輸出受注DIが4月に61.0と前月比▲0.5%ポイント低下したが、小幅なうえに拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回っていることから、新興国、日本、ユーロ圏など世界経済の拡大持続を示唆している。実際、4月の各国の製造業景気指数をみると、ユーロ圏が7ヵ月連続で50を上回り加速している。日本も安定的に拡大している。新興国では、インド、ブラジル、中国などが高い水準を維持した。これら各国の数値を合成した世界製造業景気指数は、58.2（前月56.7）に上昇すると推測され、高い水準を維持しており、製造業部門は世界的に速いペースで拡大している。



各国の米国向け輸出の拡大ペースは、今後数ヶ月に亘り高い伸びを維持

全体の動きに遅れて動く傾向がある輸入DIが前月比1.0%ポイント上昇し58.0と高い水準を維持していること、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注DIが前月比4.2%ポイント上昇し65.7と高い水準を維持していることから、日本を含む先進各国、BRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、今後数ヶ月に亘り高い伸びを維持すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

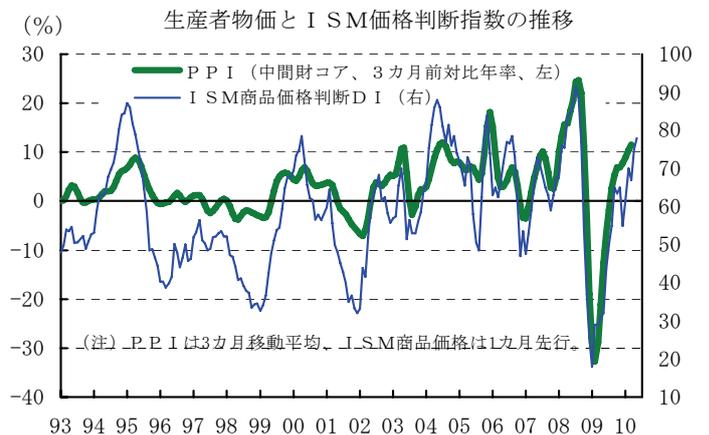
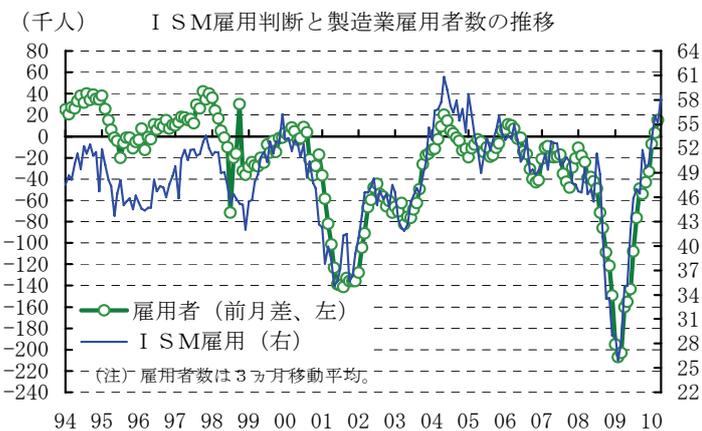


雇用DIは58.5と4月の製造業雇用の増加幅拡大を示唆

雇用DIが58.5と前月比3.4%ポイント上昇し水準も高いため、4月の製造業雇用者数は増加幅を拡大すると予想される。ただし、価格競争の激化の中でコスト削減圧力は強く、製造業部門での雇用の増加ペースは鈍化すると見込まれる。

仕入価格DIは78.0と川中でのインフレ圧力の強まりを示す

仕入価格DIは、78.0と前月から3.0%ポイント上昇した。2008年ほどのインフレ圧力はないものの、川中でのインフレ圧力が徐々に強まっており、今後企業収益を圧迫する要因となろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。